



三次元構築による消化管粘膜下腫瘍の形態評価と診断の関連性に関する遡及的観察研究

2019年1月1日から2024年1月6日に2cm以上の消化管粘膜下腫瘍に対してCTおよび超音波内視鏡による検査を受け、最終的に間葉系腫瘍と診断された患者さん

研究協力をお願い

当科では「三次元構築による消化管粘膜下腫瘍の形態評価と診断の関連性に関する遡及的観察研究」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2019年1月1日から2024年1月6日に日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて、2cm以上の消化管粘膜下腫瘍に対してCTおよび超音波内視鏡による精査を受けたあと、最終的に間葉系腫瘍と診断された患者さんの腫瘍の形と診断の関連性を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：三次元構築による消化管粘膜下腫瘍の形態評価と診断の関連性に関する遡及的観察研究

研究期間：研究実施許可日～2025年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 後藤修

(2) 研究の意義、目的について

消化管（腸）の粘膜の下にできる腫瘍（粘膜下腫瘍）には、消化管間質腫瘍（以後GIST）、平滑筋腫、神経鞘腫などがありますが、このうちGISTは悪性の性質を持つことが多く、正確な診断が求められます。これまでの我々の研究から、腫瘍の形・歪みを解析することで、どの腫瘍であるか診断できる可能性があることがわかってきました。今回、CT画像を用いて消化管粘膜下腫瘍を三次元構築し、腫瘍の形（歪み）を測定することが診断に役立つかを検証するために、本研究を行います。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

本研究は、2019年1月1日から2024年1月6日に日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて、2cm以上の消化管粘膜下腫瘍に対しCTおよび超音波内視鏡検査を受けられ、かつGIST・平滑筋腫・神経鞘腫のいずれかと診断された患者さん15名の方を対象とします。今回、粘膜下腫瘍のCTのデータを個人が特定できない状態に処理したうえで株式会社クロスメディカルに委託し、粘膜下腫瘍を立体的に再現し、腫瘍の歪みを表す指標（球形度）を測定します。また、超音波内視鏡の画像を用いて平面的な歪みの測定（円形度）も私たちが画像解析ソフト（Image J）を用いて行い、円形度と球形度、球形度と最終診断の関係についても検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、基礎疾患、内服歴、血液検査、CTデータ、内視鏡（超音波内視鏡を含む）の画像、腫瘍検体の病理結果

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。

その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 准教授 後藤修

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：25718

メールアドレス：o-goto@nms.ac.jp